



ユネスコスクール便り

令和2年7月22日

No.93

大牟田市I社コスクール
担当者通信

つながりを大切にし、
かかわりを深める児童生徒の育成

みなと小学校、再開!

7月6日(月)から7日(火)にかけての豪雨により、大牟田市で広範囲に道路の冠水、住宅の浸水等が起きました。中でも、みなと小学校区は深刻な浸水被害を受けました。

校舎1階が浸水したみなと小学校では、子どもも職員も上の階に避難して一夜を過ごしました。次の日、水が引いた後の校舎には大量の泥やごみ残り、床板は大きく波打ち、多くの備品や教材が使えなくなりました。この状況に、みなと小の職員だけでなく、天領小・大牟田中央小・宅峰中の職員、各学校の体育主任が応援に駆けつけ、復旧作業が始まりました。大牟田市教育委員会事務局、校長会、教頭会、退職校長会も連携・協力し、みなと小学校の子ども達のために、連日懸命な作業が続きました。



再開したみなと小学校

そして7月13日(月)、奇跡とも思える1週間での学校再開を果たしました。朝、みなと小学校の校舎には、「みんなで力を合わせてがんばろう! 数多くの励ましと支援に感謝します」の言葉が掲げられ、子ども達を迎えました。「みなと小学校の子ども達のために」ユネスコスクールのまち・大牟田の学校が一つになった1週間でした。

全国のユネスコスクールから励ましのメッセージが届いています。

教えて! 大牟田のESD



Q:「ユネスコスクール担当者」はどんな仕事をしているのですか?

本市の学校には、校務分掌に「ユネスコスクール担当者」が位置付けられています。ユネスコスクール担当者は、校内外の様々な方々と連携してESD推進のために情報交換を行ったり、ESDに関するカリキュラムの改善に取り組んだりしています。また、定期的に「ユネスコスクール担当者会」が開かれ、ユネスコスクールに関わる行事や研修会の運営、ユネスコスクール便りの発行などを行っています。

特色ある実践事例の紹介

「見つめよう大牟田の町 ~安全な暮らし~」

(環境・防災)を通して 大牟田中央小学校



本校の5年生は「防災」という視点で、地域の対策やそれに取り組む人々について学習しました。

まず、防災センターを見学し、災害の模擬体験を通して、非常災害時に求められる力について学びました。また、集めた情報の整理・分析を行い、自分にできることを考え、実践しました。

実践例として、学習発表会の際に来校される方に向けて、防災に関する知識や啓発したい内容を新聞やパンフレットにまとめて、保護者や地域に発信しました。

今後も、様々な人と関わりながら、より災害に強い町にしていくために地域の一員としてできることを考え、実行していきます。



保護者や地域への発信

人と地域とつながる 歴木中学校



本校では、福祉体験、職場体験、地域探究、保育体験などの交流体験から課題を発見し、解決に向けて主体的・協働的に学ぶことを通じて、実生活や社会で生かされる思考力・判断力・表現力を身につけることを目指しています。また、共に活動することで、思いや願いを共有し、地域に貢献できる資質や能力を育てています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で体験学習が困難なため、SDGsに関する新聞の記事などを読んで、自分が経験したことや感じたことなどを踏まえ、「自分たちにもできること」を考え、具体的な実践に繋いでいきます。



新聞記事を読んで課題をつかむ生徒